

概要報告

実施期日	令和7年8月4日（月）
部会名	小学校 生活部会

研究主題 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ 『自己肯定感を高め、これからの生活への意欲を高める学習活動』

提案概要

1年生最後の単元として「もうすぐ2年生 おおきくなった自分を見つめよう」を設定し、一年間の学習や生活を振り返る活動を通して、自分の成長を実感させ、自己肯定感を高めることをねらいとした。本単元では、「自分の成長を振り返り、役割が増えたことに気付く」「成長を支えてくれた周囲の人々への感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもつ」などを評価の観点に据えた。小さな頑張りや出来事を記録し積み重ねる「レベルアップカード」や、各教科の成果物を手掛かりに、子どもたちの内面に働きかけ、成長を自ら実感し、次の学年への自信につなげてほしいという願いを込め、一年間の成長をアルバムにまとめる活動を設定し、自分自身の頑なりに気付くとともに、支えてくれた周囲の人々への感謝の気持ちをもつことができるように実践を行った。

○単元構想と活動内容

1次	あたらしい一年生を しょうたいしよう	入学前の不安や期待を振り返り、その経験を園児との交流に活かした。ランドセルを背負わせるなどの関わりを通して、園児にやさしく接する姿が多く見られた。手を引いて案内したり、安心できる言葉をかけたりするなど、思いやりのある行動が随所に見られた。
2次	一年かんを ふりかえろう	担任が作成した一年間のカレンダー、図工の作品やひらがなファイルなどの成果物を見ながら、自分の「成長した瞬間」を振り返り、友だちと感想を交流した。楽しかった出来事や頑張ったことを共有し合う中で、それぞれの成長や思い出を確かめ合う姿が見られ、交流的な学びが広がった。
3次	あのときの しゃしんをとろう	成長を感じた場面をワークシートに記入し、その思い出の場面を5年生とのペアで再現して写真に収めた。5年生にアイデアをもらいながら活動していた。
4次	大きくなった じぶんを見つめよう	写真を貼り、その当時の気持ちやコメントも添えて、オリジナルのアルバムを作成した。友だちとの関わりや自分の挑戦や努力が伝わるコメントが見られた。日本語が苦手な児童には、キーワードの提示や対話を通して活動の支援を行った。
5次	みんなにせいちょう をじまんしよう	完成したアルバムを見合い、感想を交流する中で、成長の仕方が一人ひとり異なることや、自分を支えてくれた人への感謝の気持ちに気付くことができた。
6次	これからの レベルアップけいかく	学習や友だち関係、習い事など、「もっとがんばりたい」という前向きな気持ちを自分の言葉で綴った。自信をもつことができたことで、すらすら書き進める姿が見られた。

○成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none">・資料を用意したことや、一年間の活動を思い出し、振り返りやすい環境を作ることにより、自分の成長に気付くことができた。・アルバム作りを通して、友だちとの交流や他学年との交流の場を設けたことにより、他者との関わりに気付くことができた。	<ul style="list-style-type: none">・振り返る際の資料の数が多かった。提示する資料を厳選することも必要。・成長と思い出の区別が難しかった。声かけ等の工夫が必要。

質疑応答

Q、普段から関わりがあった6年生ではなく、なぜ5年生との活動だったのか。

A、6年生には1年間お世話になっていたが、さらに他の学年との関わりを意識して、来年度最高学年になる5年生にお願いした。

Q、課題として「成長」と「思い出」の区別が難しいとあったが、どんなことを想定していたか。

A、例えば、遠足で水族館に行ったことを選んだとしたとき、「魚が見られて楽しかった」という見たままのことだけではなく、「〇班の友だちと協力して魚を見て回ることができた」というように、達成感を付け足して書いて欲しかった。

Q、活動の最終的な目標として「関わってきた周りの人に感謝の気持ちをもつ」とあるが、言葉にして書いたのか、それぞれ発表したのか。

A、児童から「協力してくれた5年生に手紙を書きたい」と提案があり、みんなで手紙を書いた。周りの大人への感謝については、発表という形にはしなかったが、つぶやきの中に感謝の気持ちが表れていた。自分の中で気付いたその気持ちを大切にしてほしいと思っている。

協議の柱および協議概要

- 1、自己肯定感を高める学習活動について
- 2、感謝の気持ちを自然ともてるような他者との関わりについて
 - ・教師が過度に介入せず、子ども同士が助け合う環境づくりが大切。
 - ・家族や先生が、小さな行動にも気付き声をかけていくことで自己肯定感が育まれる。
 - ・「ありがとう」を日常的に使い、感謝のサイクルを作ることが重要。
 - ・席替え前に「いいところ」を伝える活動や、異学年交流を通して感謝の気持ちを育てる。
 - ・他者との関わりが自己肯定感を高めていく。教室内での安心感が大切。
 - ・褒める体験や達成感が自己肯定感を支え、感謝は異学年交流や地域活動でも育つ。
 - ・自分の頑張りに目を向ける学級経営と認め合う機会が必要。

まとめ概要

本実践では、子どもたちが自分の成長に気付けるよう、初めからゴールの姿を見据え、長い目で取り組まれていた。学びの履歴を積み重ね、教室全体を学びを止めない環境にし、いつでも振り返ることができ、出来事を思い出すきっかけを作り出した。子どもの一つ一つの気付きに寄り添い、一緒に驚いたり褒めたりすることで、子どもがより積極的に前向きに学習に取り組んでいく姿が見られ、その積み重ねが、好奇心や探求心の芽を育てることに繋がっていた。これからの生活への意欲を高めるためにも、子どもたちが安心して自己表現できる場を充実させていく必要がある。